

神戸町社協居宅介護支援事業所だより

……認知症とはどんな病気か?……

認知症と もの忘れは違う

お年寄りの記憶が衰えてきたと思ったら、単なるもの忘れなのか、認知症の初期段階なのか見極めることが大切です。認知症が心配されるようなら早めに医師に相談してください。

また、認知症はもの忘れと間違えられるなど誤解を受けやすい病気なので、症状や病気の方法をよく理解し患者に接することが大事です。

●認知症とは?

「脳や身体の疾患を原因として、記憶、判断力などの障害が起こり、普通の社会生活が送れなくなった状態」と定義されています。

●もの忘れとは?

久しぶりに会った人の名前が出てこなかったり、1週間前に友人と交わした約束を忘れるようなもの忘れは老化による記憶力の低下による現象です。

認知症は こうして起こる

認知症のほとんどは脳の病気によって起こります。その原因となる主な病気は「脳血管障害」と「アルツハイマー病」です。

認知症は一般に治りにくいとされますが、「慢性硬膜下血腫」「甲状腺機能低下症」など治りやすい認知症もあるので、症状を見逃さず早めに診断を受けることが大切です。

●脳血管性

脳の血管が詰まったり(脳梗塞)、破れたり(脳出血)することによって、その部分の脳の働きが悪くなつて起こります。症状としては、もの忘れ、めまい、頭痛、耳鳴り、しびれなどが



あり、脳卒中中の発作を起こすたびに段階的に悪化していきます。

また、ある能力は低下しても、別の能力は影響がないなど「まだらボケ」の症状を見せます。

記憶障害はひどくなつても、人格や判断力は保たれることが多いのも特徴です。早期治療を行えば、直る場合もあります。

●アルツハイマー型

脳の萎縮などによって起こる病気ですが、原因はまだわかっていません。症状としてまずもの忘れが起こり、暗算などができなくなります。新しいことが覚えにくくなり、忘れやすくなります。

病気が進むと自分の年齢や現在の場所などもわからなくなり、生活に支障をきたすようになります。性格も変わり判断力が著しく低下し、家庭での介護が困難になります。まれに50〜60歳からでも起きますが、多くは80歳以上の高齢者に見られます。

●認知症の7つの法則

認知症の出方にはいくつか法則があります。介護者はそうした法則があることを承知して接することが大切ですが、人によって出方はいろいろで、マニュアル通りにはいかないことをよく理解しておきましょう。

①	記憶に障害が出る	新しいことが覚えられない、体験したことを全部忘れてしまうなど記憶に障害が出る。
②	身近な相手ほど症状が出る	介護者など日常接する人に対して強く症状が出る一方、たまに訪問する人には症状が出ずらく、「聞いているより進んでいないのでは」と介護者が誤解されることも多い。
③	いつも自分が正しい	財布をどこかに置き忘れても、だれかが盗ったに違いないと訴える。嘘ではなく、本気でそう思っている。
④	正常と認知症が交互に現れる	正常なときと認知症が出る時が交互にやってくる。態度が急変するので周囲はとまどう。
⑤	1つのことにこだわる	1つのことが気になるとなかなかそこから抜け出せない。失禁したときなど、いつまでもそのことを気に病み、かえって失敗することもある。
⑥	事実は忘れ感情だけが残る	事実はすぐに忘れてしまうが、そのとき抱いた感情は残像として残る。失敗をとがめられた感情などがいつまでも残り、不信感をつのらせる。
⑦	出方は一定ではない	症状の出方は一定ではなく、その人の人生を反映した行動が現れる。マニュアル通りにはいかない。